

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	51	大学等名	工学院大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム (ギャップイヤー)		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・クォーター制を平成 27 年度新設の先進工学部から 3 学部拡大して導入するなど、学外学修プログラムの全学導入に向けた環境整備が順調に進捗している。また、ハイブリッド留学後の支援も対象に、当初計画にはなかった ISDC プログラム (Industry-Student Direct Collaboration Program) を導入している。さらに、学生データの統合、入学時の習熟度調査のバージョンアップ、学年進行に合わせた到達水準の測定方法の開発等に着手するなど、入口から出口までの質保証に寄与する取組を着実に実行していることは評価できる。
- ・ハイブリッド留学制度導入を契機に設けた、受入協定校からの留学生支援を目的とするキャンパスアテンダントプログラム (CAP) は、そのスタッフを留学経験者だけでなく未経験者も対象としたことで、協定校留学生、ハイブリッド留学経験者及び非経験者が一堂に会する「交流のプラットフォーム」となっている可能性が高く、これまでに類を見ない新しい取組であり、評価できる。

<改善を要する点>

- ・事業の実施体制については、各組織の構成員や補助期間終了後の見通しも含め、より詳細に説明する必要がある。
- ・留学先開拓が鋭意行われているが、留学希望想定数に対応できるレベルにあるのか、具体的な受入人数を提示して説明する必要がある。
- ・活動資金のマッチングファンドについて検討中とのことだが、高額な海外旅費や英語レッスン等の外部委託費等を拡大する対象者との兼ね合いも含めて、具体的にどのように補助期間終了後も継続していくのか、その見込みを明示する必要がある。